

のれんは償却すべきか、減損すべきか
—株主効用と経営者インセンティブの観点からの考察—

花村信也(みずほ証券)

本発表は、買収で発生するのれんの減損と償却に関して、のれんを規則償却すべきか、減損会計を適用すべきかを、理論的に分析した。分析の結果は、企業価値の最大化と経営者の効用の最大化の観点からは、減損リスクを考慮しても、のれんを **relative benefit rule (RBR)** に従って規則償却することが両者にとって最適となる。一方、規則償却をしないのであれば、株主も経営者も効用は最大化されない。このとき、減損の可能性が高い場合、株主が経営者への報酬を下げてても経営者は努力し、逆に、減損の可能性が低い場合には、株主が経営者に報酬を払わないと経営者は努力をしない結果となった。すなわち、減損会計が経営者の努力のインセンティブとなっていることが示された。